

編集後記

びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第16号を、ここにお届けいたします。大変お待たせをいたしました。本号には、自由研究論文が2編、研究報告が2編、活動報告1編、アカデミックアワー研究報告が7編と、多岐多彩なる研究論文が納められており、本学アカデミアの叡智を集結していると言えます。何より、本号の発刊に向けてご協力いただきました皆様に、改めて厚くお礼申し上げます。

さて、昨今のスポーツ事情といえば、ラグビーワールドカップやオリンピック東京大会など、世界規模でのスポーツイベントが目白押しとなっていることが挙げられます。世界中の人々が我が国を訪れて、この国の美しい文化と触れ合い、スポーツ観戦で盛り上がる姿は、多くの感動を生むことでしょう。我々、スポーツ大学の関係者も、そのような世界規模の取り組みに寄与するような積極的な働きかけをしていかねばなりません。本紀要が多かれ少なかれ、そのような動向に関与することも期待せざるを得ないのです。

このような社会情勢の中で、試合に向かう国内外の多くのトップアスリートやコーチは、日々精進を重ね、普段の努力の成果を日本のこの地で導き出そうと躍起になっています。「百折不撓(ひやくせつ)」……彼らの日々の取り組みに役立つような研究成果を生むことも、本学の大きな役割であると心得ています。

このように鑑みると、スポーツは文化に他なりません。その文化を発展させ、未来の日本に貢献することこそが、本学の大きな役割に相違ありません。このような背景にあって、本学の研究活動が益々盛んとなり、日本のスポーツ科学の発展のみならず、世界の学術に貢献するよう研鑽に努めてまいりたいものです。

本号を集約するにあたり、投稿者を含め、多くのご尽力を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。

査読者氏名：秋武 寛，北村 哲，黒澤 寛己，小松 猛，Steve Jugovic，多賀谷 智子，
豊田 則成，禰屋 光男，林 綾子，林 弘典，藤林 献明，村瀬 陽介

びわこ成蹊スポーツ大学 図書・学術委員会 委員長
兼 紀要編集専門委員会 委員長
豊田 則成